

# 創立90周年記念 土木研究所講演会

## 90th Anniversary PWRI Lecture

■特別講演 15:30~16:30

「東日本大震災の教訓と今後の地震・津波防災対策」

早稲田大学理工学部  
社会環境工学科 教授  
濱田 政則氏



### ●プロフィール

(略歴)昭和43年 東京大学大学院工学研究科 修士課程修了後、同年 大成建設(株)入社、昭和55年 工学博士(東京大学)、昭和58年 東海大学海洋学部 助教授、昭和61年 東海大学海洋学部 教授を経て平成6年より現職。

(専門分野) 地震防災工学、地盤工学

(現在の委員会、学協会活動等) 文部科学省「技術・学術審議会研究計画・評価分科会」臨時委員(2009年5月～)、文部科学省分科会「防災分野の研究開発に関する委員会」委員長(2009年5月～)、防衛省「普天間飛行場代替施設建設事業資材調達検討委員会」委員長(2009年5月～)、国土交通省独立行政法人評価委員会委員長(2009年5月～)、独立行政法人評価委員会水資源機構分科会合同会議委員長(2009年5月～)、(財)鹿島学術振興財団評議員(2009年1月～)、(社)日本工学アカデミー理事(2010年5月～)

(主な著書)「液状化の脅威」、岩波書店、2012、「都市ライフラインハンドブック」、丸善、2010.1等

### ●特別講演の概要：

東日本大震災により防災分野の科学技術に対する国民の信頼が著しく失われた。地震と津波の予知の失敗、原子力発電所の重大事故、津波防潮堤の崩壊に代表される防災社会基盤施設の不全、液状化による夥しい数の住宅被害、さらには臨海コンビナート地区での火災や爆発の発生などが科学技術に対する不信感を増殖させている。「安心社会の創成」の拠り所の一つは科学技術への信頼である。それがこの災害によってもろくも崩れてしまった。

科学技術だけでなく、遅々として進まない復興に対して政治、行政への失望感が人々の中に広まっている。原発事故の終息および現存する原発の再稼働問題を含めてわが国のエネルギー政策の方向性について明解な方向性を打ち出せない状況が続いている。

一方、地震予知分野の研究者は、東日本大震災での予知失敗の十分な総括と反省がないまま首都直下地震や南海トラフ沿いの超巨大地震の発生の危険性を声高に主張し、マスコミがこれをあおるように報道して国民の不安感をいわずらに拡大している。

被災地の復興および将来の自然災害への備えに関し、わが国はまさに混迷の中にある。このような状況から脱却するため、防災分野の科学技術の研究のあり方とそのための組織・体制の再構築が必要である。